

日本 7～9 月期 1 次 QE 予想：内需の拡大により 2 四半期連続のプラス成長（前期比年率+0.4%）

7～9 月期の実質 GDP 成長率は前期比+0.1%（年率+0.4%）と 2 四半期連続のプラス成長になった模様。個人消費は賃金上昇の持続により増加が続き、設備投資や輸出も増加したとみられる。続く 10～12 月期も個人消費の回復が続き、設備投資は増勢が加速するとみられ、内需主導の成長が加速すると予想。

国内需要の拡大続きプラス成長維持

本日午前までに公表された指標から試算すると、11 月 15 日公表予定の 2024 年 7～9 月期実質 GDP1 次速報は前期比+0.1%（年率+0.4%）とプラス成長に転じたとみられる（右表）。

主因は個人消費と輸出の増加であり、個人消費は、今春闘を受けた賃金の上昇加速が引き続き、所得増やマインド改善につながって 2 四半期連続で前期比増加したとみられる。さらに、設備投資も増勢を維持、輸出も財・サービスとも増加した模様。

この結果、7～9 月期の実質 GDP の前年同期比はプラスに転じ、景気はようやく回復しつつある。

10～12 月期もプラス成長が続く見通し

続く 2024 年 10～12 月期も、賃金上昇と物価上昇の鈍化により実質賃金が増加し、個人消費の拡大が加速しよう。設備投資も景気の回復を背景に増勢を強めるとみられる。輸出も増勢を維持し、実質 GDP 成長率は内需主導で前期比の成長率を高めると予想する。

実質 GDP 成長率の推移（QE 予測）

	2023				2024			1次QE 7～9
	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	(前期比・%)	
実質 GDP	1.3	0.7	▲ 1.1	0.1	▲ 0.6	0.7	0.1	
(年率換算)	5.2	2.8	▲ 4.3	0.2	▲ 2.4	2.9	0.4	
(前年同期比)	2.6	2.0	1.3	0.9	▲ 0.9	▲ 1.0	0.3	
国内需要	1.3	▲ 1.0	▲ 0.8	▲ 0.1	▲ 0.1	0.8	0.1	
民間需要	1.6	▲ 1.0	▲ 1.1	0.0	▲ 0.2	0.7	0.1	
民間最終消費支出	0.7	▲ 0.8	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 0.6	0.9	0.3	
民間住宅投資	0.9	1.4	▲ 1.2	▲ 1.1	▲ 2.6	1.7	▲ 1.8	
民間企業設備投資	2.3	▲ 2.0	▲ 0.2	2.1	▲ 0.5	0.8	0.4	
民間在庫品増加	(0.3)	(▲0.0)	(▲0.5)	(▲0.1)	(0.3)	(▲0.1)	(▲0.1)	
公的需要	0.4	▲ 0.9	0.2	▲ 0.4	0.1	0.8	0.1	
政府最終消費支出	0.0	▲ 1.2	0.6	▲ 0.1	0.3	0.1	0.2	
公的固定資本形成	2.6	1.0	▲ 1.9	▲ 1.7	▲ 1.1	4.1	▲ 0.6	
財貨・サービスの純輸出	(▲0.1)	(1.4)	(▲0.2)	(0.2)	(▲0.5)	(▲0.0)	(0.0)	
財貨・サービスの輸出	▲ 2.2	3.2	0.1	3.0	▲ 4.6	1.5	1.7	
財貨・サービスの輸入	▲ 1.6	▲ 4.1	1.3	2.0	▲ 2.5	1.7	1.6	
名目 GDP	2.3	2.0	▲ 0.0	0.7	▲ 0.3	1.8	▲ 0.1	
(年率換算)	9.6	8.1	▲ 0.0	2.8	▲ 1.1	7.2	▲ 0.6	
(前年同期比)	5.0	5.8	6.6	4.8	2.5	2.1	2.1	
デフレーター（前年同期比）	2.4	3.8	5.2	3.9	3.4	3.1	1.8	

(出所) 内閣府、予測は当社による

主な需要動向は以下の通り。

個人消費

7～9月期の個人消費は、前期比+0.3%と2四半期連続の増加。耐久財は大手自動車メーカーの出荷再開により回復傾向、半耐久財は猛暑を背景に夏物衣料の好調などから増加、全体の約6割を占めるサービスは台風などの天候不順が下押し要因となったが外食などの好調により増加が続く。ただし、食料品などの非耐久財は、節約志向が根強く減少したとみられる。

住宅投資

7～9月期の住宅投資は、前期比▲1.8%と2四半期ぶりに減少。先行指標の住宅着工件数から判断すると、貸家や持ち家が底堅く推移する半面、分譲の停滞が昨年半ば頃から続いている模様。

設備投資

7～9月期の設備投資は、前期比+0.4%と2四半期連続の増加。工場や倉庫などの建設投資は、人手不足によって建設工事の進捗が滞っているものの、機械投資は底堅く推移しているとみられる。

公共投資

7～9月期の公共投資は、前期比▲0.6%と2四半期ぶりに減少。前期比大幅増となった反動であり、概ね横ばい推移。

輸出入

7～9月期の輸出は、前期比+1.7%と2四半期連続の増加。財（モノ）は前期比+0.9%と2四半期連続の増加だが、昨年後半から今年春にかけての落ち込みに比べ、回復ペースは緩やかにとどまる。サービスも前期比+4.2%と2四半期連続で増加の見込み。知的財産権使用料が堅調な一方で、旅行（インバウンド需要）は夏場に増勢一服となった模様。

輸入は、前期比+1.6%と2四半期連続の増加。内需の底堅さを反映して、財（前期比+0.8%）とサービス（+4.0%）がともに増加したとみられる。